

最新の技術・製品情報をお届けします



ガスタービン・機械

インドネシア向け 150MW級蒸気タービン 発電設備2基を受注

川崎重工は、台湾の台塑重工 (Formosa Heavy Industries Corporation) から、旭硝子株式会社のインドネシアの子会社であるアサヒマス・ケミカル社向けに、発電出力150MW級の蒸気タービン発電設備2基を受注しました。

今回受注した設備は、アサヒマス・ケミカル社がインドネシア・バンテン州チレゴンの工場に新設する高効率石炭火力発電設備に設置されるもので、川崎重工はこの発電設備向けに、川崎重工製蒸気タービンとしては最大出力となる150MW級の蒸気タービン発電設備2基を供給します。同工場では、苛性ソーダや塩化ビニル樹脂などの生産能力増強が進められており、高効率発電設備の導入により、電力コストの大幅な削減と環境負荷低減を図るものです。なお、同社への出荷は、1基目が2017年5月末、2基目が2017年9月末を予定しています。

車両

四国旅客鉄道株式会社向け CFRP台車「efWING®」を納入

川崎重工は四国旅客鉄道株式会社 (以下、JR四国) 向けに、CFRP^{*1}パネ採用の鉄道車両用台車「efWING」^{*2} 4台を納入しました。

今回納入した「efWING」は、JR四国が保有する121系近郊形直流電車2両に装備 (1両あたり2台) され、板パネおよび車輪部分には川崎重工モーターサイクル製品のイメージカラーであるライムグリーンの彩色を施しています。同車両は、7200系近郊形直流電車として、2016年6月より予讃線 (高松～伊予西条間) ならびに土讃線 (多度津～琴平間) において営業運転を開始しました。

^{*}1 CFRP:炭素繊維強化プラスチック ^{*}2 「efWING」:川崎重工の登録商標



航空宇宙

「川崎式BK117C-2型ヘリコプター」を 愛媛県と警察庁に納入

川崎重工は、愛媛県向けに「川崎式BK117C-2型 消防防災ヘリコプター」を納入し、既存の川崎式BK117ヘリコプターの更新機として愛媛県消防防災航空隊に配備されました。また、警察庁向けに「川崎式BK117C-2型ヘリコプター」を2機納入。「C-2型」の警察庁向けヘリコプターとしては初めての納入で、既存のヘリコプターの更新機として、神奈川県警察本部および千葉県警察本部に配備されました。

川崎式BK117ヘリコプター (以下、BK117) は、川崎重工と欧州のヘリコプターメーカーのエアバス・ヘリコプターズ社 (旧メッサーシュミット・ベルコウ・ブロウム社) が共同開発したヘリコプターで、物資・人員輸送、消防・防災、警察、ドクターヘリ、報道など多用途に活用される中型双発機です。BK117は、機体後部に大きなクラムシェル・ドア (観音開きドア) を備え、担架等の資機材の搬出入が容易なことをはじめ、広いキャビンスペース、コンパクトなボディ、機動性の良さなどが高く評価され、消防・防災用および救急医療用機として全世界で使用されています。

BK117は、国産ヘリコプターとして1983年の初号機納入以来改良を重ね、川崎重工納入 (2016年3月14日時点) で169機、エアバス・ヘリコプターズ社納入分を合わせると全世界で1,200機以上の納入を誇るベストセラー機です。



愛媛県消防防災航空隊向けヘリコプター



神奈川県警察本部向けヘリコプター



千葉県警察本部向けヘリコプター

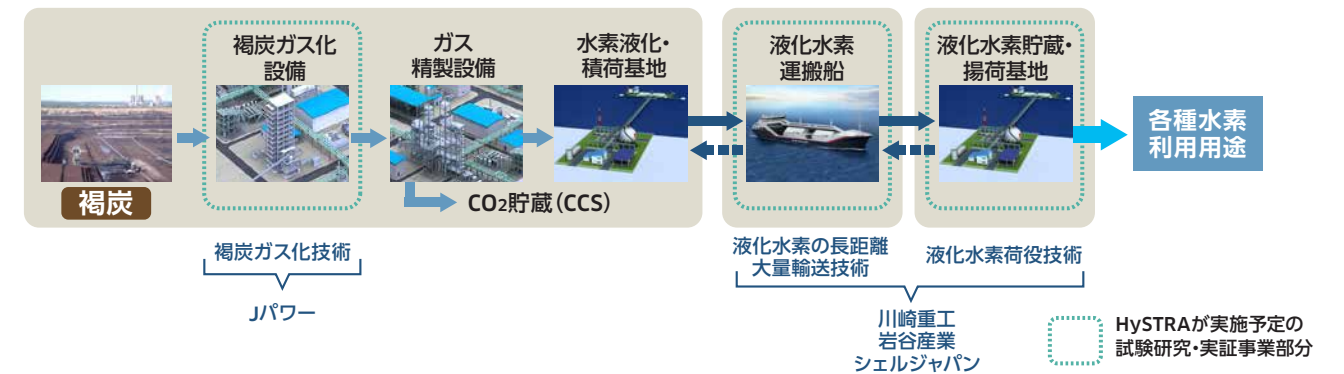
4社で「HySTRA」を設立。 水素エネルギー社会の実現に向けて活動を本格化

川崎重工、岩谷産業株式会社 (以下、岩谷産業)、シェルジャパン株式会社 (以下、シェルジャパン)、電源開発株式会社 (以下、Jパワー) の4社は、CO₂フリー水素サプライチェーン構築を推進する「技術研究組合 CO₂フリー水素サプライチェーン推進機構」 (略称「HySTRA (ハイストラ)») を2016年2月22日に設立し、実証事業をHySTRAに移管した上、本格的に活動を開始しました。

将来、海外からの商用液化水素チェーン実現を見通すため、HySTRAは「褐炭ガス化技術」のパートと、「液化水素の長距離大量輸送技術」および「液化水素荷役技術」の2つのパートで構成され、2020年度までに各パートにおける技術実証と、商用化に向けた課題

の抽出を行うことを目的として活動していきます。国内で石炭ガス化複合発電 (IGCC) に取り組んでいるJパワーは、これまで蓄積したガス化技術を活かし、「褐炭ガス化技術」の技術実証に主体的に取り組みます。また、極低温機器サプライヤーである川崎重工と、国内唯一の液化水素製造・供給事業者である岩谷産業、LNGのサプライチェーンやLNG船の運航に実績があるシェルジャパンは、3社共同で「液化水素の長距離大量輸送技術」および「液化水素荷役技術」の技術実証を担当します。今後、この4社がHySTRAのもとで各社の強みを持ち寄り、研究開発や実証事業を効率的に進めていきます。

【CO₂フリー水素サプライチェーン構想とHySTRAの技術実証項目】



プラント・環境

巨理名取 共立衛生処理組合向け ごみ処理施設を納入



巨理名取共立衛生処理組合 新ごみ処理施設

川崎重工は、宮城県の巨理名取共立衛生処理組合向けにごみ処理施設を納入しました。今回納入した施設は、ごみ焼却発電施設 (処理能力157t/日: 78.5t/24h×2炉) とリサイクルセンター (処理能力22.9t/5h) で構成され、川崎重工は、本施設的设计、機器の製作・調達・据付工事を担当しました。

ごみ焼却発電施設は、少ない空気量で燃焼性能の高い川崎重工独自のストーカ式並行流焼却炉を採用し、焼却炉から発生する排ガスに対して、ろ過式集じん器 (バグフィルタ) 等の設置により、万全な公害防止策を施しています。また、プラント排水は施設内で再利用し、施設外に排出しない完全クローズド方式を採用しています。さらに、ストーカ式並行流焼却炉に、廃熱回収ボイラと蒸気タービンを組み合わせて廃棄物発電を行うことにより、地球温暖化防止・循環型社会の形成に寄与する施設です。

建設地は東日本大震災で甚大な被害を受けられた地域ですが、震災の教訓を活かし津波や水害などを考慮するとともに、突発的な停電を考慮した非常用発電機を備えることで、非常時でもごみの焼却ができる施設としています。